

第 1 章 計画の目的

1. 計画の目的
2. 計画の位置づけ

1. 計画の目的

かつて経験したことのない急速な人口減少、少子化及び超高齢化の進行に直面し、経済の低迷と、消費者ニーズの変化等によって、求心力が低下する中心市街地において、今、この人口構造の大きな変化に対応し、未来の変化を見据えた中心市街地の活性化が求められている。

近年の労働力の不足、今後も続くと予想される消費及び投資額の減少によって、さらなる経済活動の低下が懸念される状況で、中心市街地を活性化させるためには、従来の大型再開発事業ではなく、今ある既存資源を最大限に活用することが必要である。

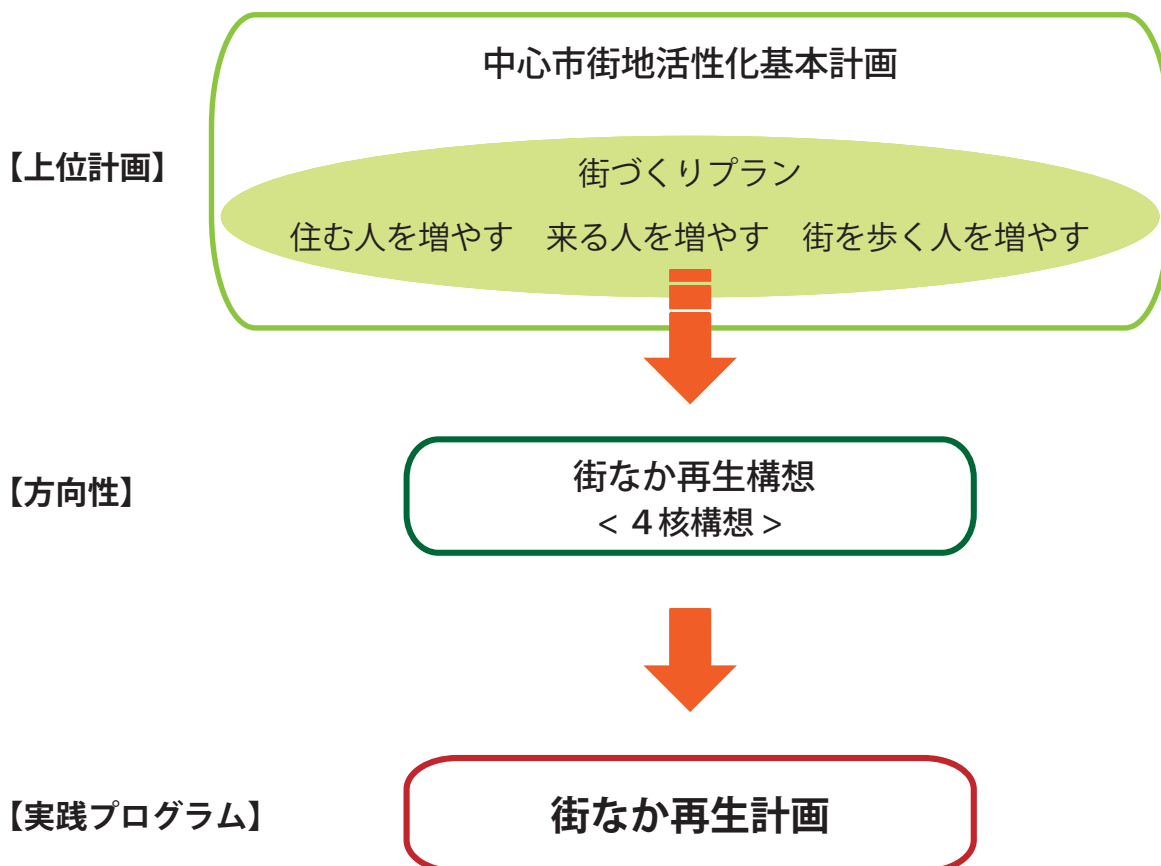
これまで佐賀市では、「佐賀市中心市街地活性化基本計画」に基づき、1806年創業の老舗百貨店である佐賀玉屋と、市街地再開発ビルのエスプラッツを拠点施設とし、両施設を結ぶ地区を中心核エリアとして定め、エスプラッツの再開、ハローワーク佐賀の誘致等を進めてきた。

今後、この中心核エリアに佐賀固有の歴史文化が残る佐嘉神社・徴古館周辺エリア、長崎街道の色合いを強く残し、街なみ保存のための各施策を実施してきた柳町・呉服町エリアを加えた4つのエリアを活動の拠点と位置づけ、集中的に賑わいの再生を図るとともに、さらにこの賑わいを中心市街地の活性化エリア全体へと広げていくことが目的である。(街なか再生構想＝4核構想)

本計画は、この4つのエリアからなる4核構想エリアの賑わいを創出するための具体的な実践プログラムを示すものである。

2. 計画の位置づけ

街なか再生計画は「佐賀市中心市街地活性化基本計画」の街づくりプランを、集中的かつ効果的に推進していくための具体的な実践プログラムである。



街なか再生構想（4核構想）とは、まずエリアを絞って人々の集中と回遊性の向上を図り、この人々の流れを、次第に周辺へ波及させることをイメージしている。

具体的には、中心核の整備としてこれまで進めてきた佐賀玉屋、エスプラッツを結ぶエリアに、佐賀市歴史民俗館などの歴史的建築物が建ち並ぶ柳町から長崎街道で繋がる呉服町一帯及び多くの歴史的資産を保有する徴古館、親水空間として整備した松原川を含む観光エリアを加えたエリア、すなわち4核構想エリアを、それぞれが持つ特性を効果的に組み合わせることで、人の動きを生み出し、さらに、4つの拠点に、行きたくなるもの、或いは、行かなければならないものを配置することによって、人々が回遊する仕組みを確立させ、それを周辺に波及させることを目指すものである。

佐賀市中心市街地活性化基本計画における「佐賀市の中心市街地活性化のエリア」と「4核構想エリア」

